

# 資格の大原

大原税理士受験生のための  
情報誌

# WIN

2024  
受験対策 Vol.3

Certified Public Tax Accountant  
information magazine

特集

## 第73回税理士試験の総括



合格おめでとうございます!!

# 第73回税理士試験の総括

## 簿記論

### (1)第73回税理士試験出題内容

#### ①第一問

問1：特殊仕訳帳制度（精算勘定を含む）の理解を問う問題

問2：自社利用目的のソフトウェアを自社開発した場合の一連の会計処理の理解を問う問題

#### ②第二問

外貨建取引（外貨建金銭債権債務の期末換算、為替予約（繰延ヘッジ）、社債（利息法）等）の理解を問う問題

#### ③第三問

決算整理前残高試算表から決算整理後残高試算表を作成する問題

### (2)合格答案の傾向

第73回本試験は、第一問はボリュームが少なく、全体的に難易度が平易な問題が出題された一方で、第二問はボリュームが多く、かつ一部に難易度の高い問題が出題されました。例年と同様、**難易度が平易な箇所**で**確実に得点を積み上げていく**ことが合格に必要でした。

また、第三問ではインセンティブ報酬などの難易度が高い項目も出題されておりましたが、**小口現金、当座預金、租税公課及び固定資産、賞与引当金、退職給付引当金を中心に得点を積み上げる**ことができたかが合否に大きく影響していると考えられます。

### (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

近年の本試験は、容易に解答が可能な箇所とそうでない箇所のメリハリがついた問題が出題される傾向にあります。**容易に解答できる箇所を見つけ出し、速く・正確に解答するために日頃から解答時間を計り緊張感を持って問題演習を行う**ことが非常に重要です。併せて、解答することが困難な箇所や解答するのに相当な時間を要する箇所は一旦後回しにするといった**解答戦略も非常に重要**となります。直前期以降に解答する答練や過去試験問題では、解答後に**項目の見直し**を行うだけでなく、**必ず解答戦略の振り返り**も行うようにしましょう。

## 財務諸表論

### (1)第73回税理士試験出題内容

#### ①第一問

「概念フレームワーク」では基本的な論点、「固定資産の減損」では過去の取扱いとの対比や個別財務諸表上と連結財務諸表上の資産のグルーピングに関する出題でした。

#### ②第二問

「純資産会計」では純資産項目の会計的性格・表示区分及び金額推定、「会計上の見積りの変更等」では、金額推定・取扱いの論拠について、それぞれ事例形式での出題でした。

#### ③第三問

会社法及び会社計算規則に準拠した計算書類の作成、販売費及び一般管理費の明細や個別注記表からの出題でした。

### (2)合格答案の傾向

第一問・問1「概念フレームワーク」の解答が困難な部分を除く**記号選択を確実に正答**し、問2「固定資産の減損」では**論述で部分点を獲得**できた方が有利でした。

第二問・問1「純資産会計」は自己株式及び新株予約権、問2「会計上の見積りの変更等」は会計上の見積りの変更について、それぞれ**金額推定**において解答が困難な部分を除き**確実に正答**し、取扱いの論拠では**部分点を獲得**できた方が有利でした。

第三問では、**基礎的論点を正確に解答し、7割前後の得点を確保**する必要がありました。「売掛金」などは問題資料から**正確に状況を把握**する必要がありました。また、「過去の誤謬の訂正」など**過去の**本試験で**出題されたことがない問題**について**対応**できた方は有利でした。

### (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

理論では、**記号選択**や**重要なキーワード**となる会計用語の指摘、抽象的な問いから問題文を読み取る**文章作成問題**に加えて**事例の計算問題**が出題されています。これらに対応するために会計基準などの理解を養うことに加え、**計算の知識も関連させて対応**していく必要があります。

計算では、**毎年頻出の基礎的論点**でベースとなる**得点を確保**しつつ、**未出題項目**や**新たな資料形式**でも**柔軟に対応**する必要があります。**過去試験問題の解答や直前対策時期の答練**などは**必須の対策**となります。

## 所得税法

### (1)第73回税理士試験出題内容

#### ①第一問

問1 上場株式の配当の支払いを受ける際の課税、配当所得の金額、配当所得の課税方法及びその課税方法に応じて適用される所得税の制度

問2 居住用不動産、事業用賃貸不動産及び別荘について災害により生じた損失の取扱い

#### ②第二問

非居住者、年の中途の開業、法人成りの総合問題

### (2)合格答案の傾向

理論は、難易度はそれほど高くないものの、答案の行数に制限があったため、**解答の柱となる部分をいかにして絞れたかがポイント**でした。

計算は、多くの論点が絡み複雑な設定であったことから、全体的には難易度の高い問題でした。しかし、**合格者の多くは基本論点で点数を伸ばしていた**ようです。

### (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

理論に関しては、**範囲を絞ることなく、かつ、暗記の精度を高いレベルまで仕上げる**ことが大前提です。これに加え、**過去問、直前答練等の難しい問題に慣れておきましょう**。また、普段の学習から実際に書く練習を取り入れ、**用紙の必要枚数や解答の所要時間**を把握することも効果的です。

計算に関しては、**難しい項目に固執するのではなく、基本項目を正確かつスピーディーに解答**することが合格への王道ですので、直前答練はこれを念頭に置いて取り組んでください。

また、近年の本試験は**解答順序と時間配分**が大きな意味合いを持ちます。従って、直前答練において**理論はタイトル挙げ、計算は素読み**を行い、どのように攻略するか研究してみてください。

## (1)第73回税理士試験出題内容

## ①第一問

問1 **グループ通算制度**をテーマとした問題です。一般財団法人が通算子法人になることができるかどうか、期限後申告を行った場合の通算前欠損金額の取扱いなど難易度の高い問題もありましたが、概ね基礎レベルの問題でした。

問2 **過大支払利子税制**が初めて本試験に出題されました。こちらも概ね基礎レベルの問題でした。

問3 **貸倒損失、貸倒引当金**をテーマとした問題で、税務上の処理を分析の上、解答する必要がありました。

## ②第二問

前回の総合問題形式とは異なり、各項目について個々に解答をする形式で、「**税務上調整すべき金額**」「**加算・減算の別**」「**留保・社外流出の別**」などの詳細について求められました。

問1 **租税公課、配当関連、役員給与、減価償却、圧縮記帳、特別償却準備金、少額減価償却資産、一括償却、交際費等**が出題されました。内容としては概ね基礎レベルの問題でしたが、**役員給与、先行取得、少額減価償却資産の主要な事業として行われる貸付**など一部の項目は難易度が高く、また、当社が**5月決算法人**のため、解きづらさを感じる問題でした。

問2 **寄附金、グループ法人税制**が出題されました。問題資料の与え方、設問の設定の仕方から正答しづらい箇所もありますが、概ね平易な問題でした。

## (2)合格答案の傾向

理論は一部の難易度が高い項目や未学習項目を除き、全体を通して、**問題資料に合わせて要求された法令を精度よく解答すること、また適切な数値を用い、学習済みの論点については正確に解答することがポイント**でした。全てAランクの理論からの出題であったため、高い精度とスピードが求められました。

計算は一部の項目を除き、平易な内容の問題であったため、**正確に、かつスピーディーに解答することが必要**でした。第二問の問2は問1と比べると分量も少なめでしたので、まずは問2を精度高く解答の上、問1について**正答すべき箇所の取りこぼしが如何に少なかったか**がポイントでした。

## (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

理論については、**幅広くもれなく学習を進める必要があります**。また、**個別理論の正確な暗記**はもちろん、**適用要件**などを中心に計算と連動して学習を進めることが大事です。更に**事例問題を分析し、どの規定が適用されるのかを分析する力**が必要です。そのためには各規程の本文を暗記するだけでなく、**その規定の意味合いを理解し、説明**できるようにしていただきたいと思います。理論テキストの本文のみならず、**理論テキストの内容解説**まで丁寧に目を通しましょう。

計算については、**基礎項目の習熟度を高めることが重要**です。基礎項目についてはどのようなパターンで出題されても対応できるようにしましょう。そのためには**計算問題集の解答などのアウトプットのみならず、適宜計算テキストを読み直し、正しい知識をインプット**していただければと思います。また、**理論学習と合わせて適用要件、適用資産などの各種要件にも気を配る**ようにしましょう。

## 相続税法

## (1)第73回税理士試験出題内容

## ①第一問

問1 **小規模宅地等の特例の特定居住用宅地等に該当するかどうかを問う事例形式の問題**

問2 **みなし個人（一般社団法人等）の贈与税の課税関係及び相続税の課税関係について問う事例形式の問題**

## ②第二問

**財産評価を中心とした納付すべき相続税額を計算する総合問題**

## (2)合格答案の傾向

第一問の問1は、**3つの宅地が特定居住用宅地等に該当するかどうかを正確に解答**できており、かつ、**関連する条文が解答**できていること。問2は、(1)及び(2)で**概要の結論だけでも触れられており、かつ、(2)の関連する条文が解答**できていること。第二問に関しては**未学習項目も含めて全体に手をつけており納付税額まで解答**できていることが合格答案の傾向として見て取れる状況でした。

## (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

近年の本試験の理論に関しては、問1、問2ともに**事例形式の出題が続いており、今後もこの傾向が続く**ことが予想されます。**概要説明を正確に行い、それに伴う関連条文を解答**するための学習が重要となり、**個別理論の理解や他の規定との関連なども把握し、計算の知識も活用しながら事例形式の問題に即した解答方法**を身につける必要があります。

計算に関しては、未学習論点に左右されずに、**既学習項目を正確に素早く処理**できるように**基本的な論点を反復練習し、既学習項目は止まらずにスムーズに解答**できるようにすることが重要です。また、ボリュームに応じて**既学習項目でも取捨選択**を意識していきましょう。

## 消費税法

## (1)第73回税理士試験出題内容

## ①第一問

問1 **居住用賃貸建物に関する事例問題**

問2 **課税期間、軽減税率、非課税・課税売上割合に関する事例問題**

## ②第二問

問1 **原則計算（調剤薬局、通所介護施設等及び軽減税率）**

問2 **原則計算（不動産業、居住用賃貸建物・調整対象固定資産に係る調整）**

## (2)合格答案の傾向

## ①第一問

問1及び問2ともに平易な問題であったため、**結論を正確に解答し、精度高く判断根拠の説明**ができていることが必要であったと考えられます。

## ②第二問

問1は一部の難解な取引は、割り切って解答し、**取引区分、適用税率の判定と棚卸資産に係る調整**を正答していること、問2は**変則的な課税期間の場合の留意点、取引区分と調整対象固定資産に係る調整**を正答できていることが必要であったと考えられます。

## (3)第74回税理士試験に向けての学習方針

理論は、幅広く出題される傾向であるため、**満遍なく知識を習得**することを念頭に、**各規定の骨子を把握のうえ正確に暗記**しましょう。また、事例問題のように状況に沿った判断が求められますので、**理論の暗記は理解を伴うものであることが重要**です。

計算は、**教材掲載項目を漏れなく習得し、正答率を高めることが重要**です。**知識の定着を図ることが解答スピードの向上にも繋がります**。また、**時間の使い方など戦略面も非常に重要**となります。

**(1)第73回税理士試験出題内容****①第一問**

複数の個別理論問題（納税義務、免許制度、引取に係る申告、受忍義務、被災酒類、納期限延長）

**②第二問**

酒類の品目判定及び税額計算問題

**(2)合格答案の傾向**

第一問（理論）は、様々な項目から幅広く出題され、全体的な解答ボリュームも少し多めでしたが、低ランクの理論も含め**各問につきバランスよく解答**していた答案が合格答案となり得たようです。第二問（計算）は、例年どおり正確な解答が必要ですが、資料の読み取りが難しい箇所もあり、税額計算において1～2箇所程度のミスであれば**最終値を合わせていなくても合格答案**となり得たようです。

**(3)第74回税理士試験に向けての学習方針**

理論問題については、重要度にかかわらず**個別規定のインプット**の完成度を高めるとともに、各規定に係る**趣旨の理解**、そして過去に出題実績のある**応用理論問題対策**も必要です。計算問題については、最終値勝負でないとしても、**ケアレスミス**を防ぎ、**迅速で正確な処理能力**を養いましょう。

## 国 税 徴 収 法

**(1)第73回税理士試験出題内容****①第一問**

問1(1) 共同的な事業者の第二次納税義務についての個別理論問題

(2) 不服申立てと国税の徴収との関係の個別理論問題

(3) 納税の猶予の取消についての個別理論問題

問2 不服申立て等の期限の特例についての個別理論問題及び制度趣旨

問3 国税の徴収権の消滅時効についての事例問題

**②第二問**

問1 譲渡担保権者の物的納税責任及び参加差押えの有用性についての事例問題

問2 譲渡担保財産についての配当計算

**(2)合格答案の傾向**

一部特殊な論点は出題されていますが合否への影響はなく、**それ以外の論点を精度高く解答**できていることが合格の条件であったようです。

**(3)第74回税理士試験に向けての学習方針**

個別理論の出題もあるため理論対策も必要ですが、事例問題では**基礎項目の深い理解**が問われる傾向があることから、条文の丸暗記だけに学習が偏ることなく、**理論テキストの解説ページを読み込み、制度趣旨等を理解**したうえでの**暗記**が必要です。

## 住 民 税

**(1)第73回税理士試験出題内容****①第一問**

問1 住所の意義、個人住民税均等割及び所得割の意義、課税の方法など

問2 個人住民税の申告手続

**②第二問**

個人住民税の総合問題

**(2)合格答案の傾向**

計算は解答量が多いながらも基本項目ばかりでしたので、**可能な限り最終値を合わせる**ことが大前提であり、その上で、**理論でどれだけ点数を積むことができたかどうか**がポイントでした。なお、理論は問ごとに配点及び用紙枚数が設定されており、この範囲内でバランスの良い答案を作成できた方が合格されているようです。

**(3)第74回税理士試験に向けての学習方針**

理論はスラスラと記述できるようになるまで仕上げ、これに加えて**直前答練**で出題した論点は特に注意してください。**計算は過去問及び直前の模擬試験を繰り返し演習**するとともに、**ケアレスミス**を減らす対策を講じておきましょう。

## 事 業 税

**(1)第73回税理士試験出題内容****①第一問**

問1(1) 期限後申告納付及び修正申告納付

問1(2) 更正の請求

問2 鉄道事業と小売電気事業を併せて行う法人の事業税額の算定に関する事例問題

**②第二問**

問1 特定内国法人の資本割額の算定

問2 個人事業税（白色）の税額算定

**(2)合格答案の傾向**

理論問1はAランクからの出題であり、**完成度の高い解答**が必要でした。

問2は問題の資料に応じて**業種ごとにAランクの理論**から「課税標準・分割基準・税額算定」について要領よくまとめる必要がありました。計算問1は**資本割額の各種論点について確実に解答**できていること、問2も**税額まで正しく計算**できている方は良い結果が出ています。

**(3)第74回税理士試験に向けての学習方針**

理論は「基本理論」を確実に覚え、その上で「事例形式」への対応が必要です。

計算は二問形式での出題のため、解答に時間がかかり、正確性も要求されます。**外形標準課税の演習を中心に解答のスピードアップと正確性の向上を目指して学習を進めてください。**

## 固 定 資 産 税

**(1)第73回税理士試験出題内容****①第一問**

問1 縦覧制度、固定資産課税台帳の閲覧制度及び台帳記載事項の証明制度の比較

問2 固定資産課税台帳の種類と概要、納税義務者の事例

**②第二問**

問1 土地（農地、宅地比準土地）の税額

問2 船舶の配分計算

**(2)合格答案の傾向**

第一問の理論問題は、問1のうち**台帳記載事項の証明制度は詳細に述べる**ことができなくとも合格できました。問2は**答案用紙の枚数に合わせて、規定部分**をある程度省略しても**合格答案**となりました。

第二問の計算問題は、難解な論点はないため、**最終値を合わせる**ことが必須でした。

**(3)第74回税理士試験に向けての学習方針**

計算は、**スピードと正確性が重要**です。積極的に総合問題で解答練習を積みましょう。理論は、**近年事例問題や制度の趣旨など理解を問う応用問題が頻繁に出題**されていますので、個別理論の暗記だけでなく**応用理論テキスト**を使用した**応用理論対策**も重要です。

# O-HARA Career Staff

## 志望動機について

税理士業界の就職・転職において、成功のカギを握るのは「資格試験の合格」ですが、資格を取得していればどこにでも採用されるというわけではありません。「入社意欲が伝わってこない」「やる気が感じられない」と評価されれば不採用となります。

今回は志望動機を考える上でのポイントをお伝えいたします。

### 税理士への志望理由

志望動機を考える時にはまず、「なぜ、税理士を目指そうと思ったのか？」を明確化するところからはじめましょう。

その際、「税理士試験を受験しようと思った理由」から書き出すと文章が作りやすいかと思います。そのあとに「税理士の仕事に興味を持った理由」「税理士になりたいと思った理由」があると良いです。

税理士を目指す理由が上手く言語化できない時は、税理士の仕事内容から逆算して志望動機を作成してみましょう。

たとえば、「税務相談」という業務に注目して、「税理士としてクライアントの税務相談に対して適切なアドバイスを行い、業務改善の役に立ちたいです。」という志望理由を作ることが出来ます。

税理士の職務内容は多岐にわたりますので、税理士の仕事についてしっかり下調べをして、自分が一番興味のあることに着目すると良いでしょう。

### 応募先への志望理由

志望動機には、「なぜ応募先への就職・転職を希望したのか」についても理由を提示しましょう。

なぜなら、応募先を選択した理由が明確であるほど、入社意欲が伝わるからです。「とりあえず」や「何となく」ではなく、興味を持ったポイントを挙げて、応募先に対する興味を示しましょう。ホームページなどを確認するといった、事前準備を怠らないようにしましょう。

選考において「志望動機」は大切な要素となります。「この人材ならぜひ迎え入れたい」と採用担当者に思ってもらえるように自分の思い・考えをしっかりと伝えましょう。

こまったときは!!

一人で悩まずに就職・転職サポートのプロ、大原キャリアスタッフへご相談ください。



就職・転職に関するご相談は

大原キャリアスタッフ

<https://www.o-hara.ac.jp/career/>

※エリアによりサービス内容が異なります。

次回のVol. 4 号は 3 月発刊の予定となります。

WIN

ウィン Vol.3

●第28巻第3号通巻232号 ●2024年1月27日発行

●発行所/大原簿記学校 〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10



最新の受験情報満載!

大原の税理士メルマガ 毎月無料配信中!

メルマガ登録はこちらから <http://www.o-hara.ac.jp/goukaku>

大原 メルマガ 検索